

令和2年度(2020年度) 県立歴史館の活動計画(目標)

使命	長野県立歴史館は、長野県に関する歴史遺産の収集・整理・保存・調査研究を通じて、それらを未来に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、将来を展望する場、楽しみ・憩い・交流する場としての役割を果たします。また、地域に貢献する県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点を目指します。		
基本目標	基本目標に対する取組		令和2年度(2020年度) 主な事業 / 目標値
長野県民の歴史遺産を未来に継承するための取組を進めます	考古資料・整理・歴史的価値を有する文書・その他歴史資料等を	<ul style="list-style-type: none"> ○史資料の収集、整理 長野県の歴史を明らかにするために必要な史資料を収集・整理します。また、当館が公文書館の機能を有し、公文書管理条例が制定されることから、歴史公文書等の収集を適切に行うよう取り組みを強化します。 ○史資料の保存 収集・整理した史資料に対し、必要に応じて適切な保存処理・修復を行い、適切な環境で保存します。また史資料の滅失、県外への流出・散逸を防ぐため必要な保存措置を講じ、重要な流出資料については購入するなど、特別の配慮を払います。 ○史資料の調査研究 長野県の歴史を明らかにするために、収集・整理した史資料に関する調査研究を行い、史資料を県民のかけがえのない文化財・歴史遺産として位置づけ、その歴史的価値を明らかにします。展示や普及活動を円滑に進めるためにも、館蔵史資料以外の県内外文化財の調査研究を行います。また、後世に伝えるために史資料の情報収集、所在や現状把握に務めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文献史料の収集・整理・保存 <ul style="list-style-type: none"> 行政文書、県報、行政資料 新規収集資料(年間約数百冊)の選別・収集・整理・登録・配架 県報、行政資料の公開(年間約300冊) 公開・非公開判定、金属除去などの実施 未整理近現代史料・県報・県史写真版資料等の整理 ○古文書 <ul style="list-style-type: none"> 新規史料の収集 未整理史料の整理を進める 年度当初未整理史料 約5万点 ○考古資料の整理・保存処理 <ul style="list-style-type: none"> 館蔵考古資料の整理と収納(報告書別に棚卸しを行い、閲覧可能なように整理する。今年度方法と手順についての検討) 収納木製品の保存処理(PEG槽へ投入、濃度アップ、取り上げ819点) 写真資料の保存(フィルムのデジタルデータ化)は35ミリポジフィルム年間6,000枚を実施 金属製品に関しては依頼に対応。調整により可能な範囲で対応する。 長野県埋蔵文化財センターから依頼のある149点を完成させる。達成率100%
	むと資料の保護(保存・活用)にも、保護思想を活用しに取組	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財の保護(保存・活用) 市町村、県、国の指定文化財等について、県立の文化財公開機関としての役割を果たします。 ○史資料の保存に関する講習会、研修会の実施 県立博物館・文書館・文化財保存修復機関・研究機関として市町村・県内博物館等への支援、助言を行います。 ○埋蔵文化財保護に関する市町村への支援 遺跡・遺構・遺物の保護、発掘調査・研究、研修などに関し支援します。 ○公文書等の保存・活用に関する県、市町村等への支援 県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○R3年度企画展の資料調査 <ul style="list-style-type: none"> 企画展「青少年義勇軍展」「縄文土器展」「丸山晩霞展」(仮称)の基本構想の作成 上記企画展の資料調査の実施 ○職員の調査研究の推進 <ul style="list-style-type: none"> 学芸研究会等における調査研究発表の実施。 研究紀要への研究論文の掲載、10論文以上 館内における「時代別研究会」の充実、年間6回以上の開催 ○県立の文化財公開機関として、企画展等において指定文化財を展示・公開 <ul style="list-style-type: none"> 市町村、県、国の指定文化財の展示機会を設ける 当館所蔵文化財借用依頼への対応 ○文献史料保存活用講習会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 開催3回 参加者60人 ○考古資料保存処理講習会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 開催1回 参加者20人 ○防災・災害の対応 <ul style="list-style-type: none"> 事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進 ○史資料の保存等に関する市町村への協力・支援 <ul style="list-style-type: none"> 依頼事項の90%以上 ○県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援をします。 <ul style="list-style-type: none"> 依頼事項の90%以上
	長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します	○常設展示の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示の工夫して行う。 <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携 信州大学工学部、繊維学部 満足度 80%以上
		○企画展示の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○企画展示の充実 <ul style="list-style-type: none"> 満足度 80%以上 春季展「長野県の考古学」(3月25日～6月14日) 夏季企画展「地酒王国 信州」(7月11日～8月23日) 秋季企画展「稲作とクニの誕生 ー信州と北部九州ー」(9月15日～11月29日) 冬季展「洋画家・書家・コレクター 中村不折 ー伊那谷から世界へー」(1月9日～2月21日) ○ミニ展示の開催 <ul style="list-style-type: none"> 企画展示室横の旧映像展示室を、各企画展の一部として使用しない際には、館蔵品を使った企画展関連展示や、新収蔵品の紹介展示などで活用する。
		○専門分野の協力による総合調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○総合研究の成果を企画展時に活かす <ul style="list-style-type: none"> 三課の協力による春季展の実施
○県内外の研究団体、研究者等と協力した調査研究の実施		<ul style="list-style-type: none"> ○館設定研究テーマの調査・研究 <ul style="list-style-type: none"> 弥生文化研究会 <ul style="list-style-type: none"> 回数:年1回実施 研究会参加者:関係市町村教育委員会 秋季企画展実施に合わせ、県内市町村と連携した展示・検討会を計画。成果をシンポジウムで報告する。 高遠藩研究会 <ul style="list-style-type: none"> 回数:年1回 研究会参加者:伊那市・宮田村の研究者、教育委員会 内容及び到達目標:令和4年度冬季展「高遠展」に向けて、資料調査を共有するための意見交換 「黒曜石研究会」を実施 <ul style="list-style-type: none"> 回数 年1回実施 研究会参加者:黒曜石産出地の市町村教育委員会 黒曜石原産地とそれに関わる遺跡の実態解明。近年の分析成果についてのまとめ。達成率70% 「長野県の土偶研究会」 <ul style="list-style-type: none"> データベース化の終了、発信テーマ「長野県の土偶」 「城郭・城下町研究会」 <ul style="list-style-type: none"> 回数:年1回実施、研究会参加者:城郭城下町を持つ市町村教育委員会 近年の調査等のデータを収集し、研究課題等について意見交換を行う。 研究成果の活用方法について具体的検討を行う。 ○未整理現代史料の整理を進める。 <ul style="list-style-type: none"> 目録を作成し、データベースとして順次公開する。 	
県民の生涯学習を支援します	○展示解説の実施	常設展示、企画展示など、展示を企画した学芸員が、展示のねらいや内容についてわかりやすく解説します。	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示室たより「資料が語る」の作成 <ul style="list-style-type: none"> 展示替え・新展示に合わせて、見直し・作成。 ○展示解説・ギャラリートークの実施 <ul style="list-style-type: none"> 解説希望の学校・団体 100%実施 各企画展における展示解説・ギャラリートーク実施
	○講演会・講座等の開催	企画展講演会及び講座(古文書講座、考古学講座、信州学講座等)を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> ○信州学講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> 開催9回 受講者900人 満足度 80% ○考古学講座の開催、探訪会の実施 <ul style="list-style-type: none"> 講座 開催4回 受講者300人 満足度 80% 探訪会(山梨県方面の博物館) 実施1回 参加者40人 満足度 80% ○古文書講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> 開催25回 受講者900人 満足度 80% ○ティーンズ古文書講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> 開催4回 受講者20人 満足度 80%
	○各種出版物の発行	ブックレット、研究紀要、史料目録、企画展・常設展図録、館たよりなどを発行します。	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に従い各種出版物の発行 <ul style="list-style-type: none"> ブックレット:「学芸員が語る 長野県立歴史館の名品選」(仮)第1巻の発行 館蔵資料の一品を学芸員が選定し執筆する。時代別に4巻構成、年1回発行。 研究紀要:1冊発行 企画展図録:夏季・秋季・冬季企画展における図録の発行 館だより、催し物案内:館だより年3回、催し物案内年2回の発行
	○体験学習の実施	各種体験学習を開発し実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ○体験学習の教材開発と実施 <ul style="list-style-type: none"> 新たな体験メニューの開発

基本目標	基本目標に対する取組		令和2年度(2020年度) 主な事業 / 目標値	
未来を映す歴史知識の泉、歴史学習の拠点としての役割を果たします。	学校教育を支援します	○学校教育への協力・連携 ○職場体験の受け入れ ○教員研修の実施、協力	中小高校の総合的学習や社会科授業の一環として歴史館を積極的に活用してもらえますようにします。さらに博物館実習をはじめとする大学教育との連携を図ります。 中学、高校、大学での職場体験事業（インターンシップ）の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらい、博物館・文書館等への認識を深める機会を設けます。 県教育委員会等の依頼により、教員対象の研修会を行い、博学連携を深めます。	○学校見学時のバックヤード探検の実施 ・希望校の90%以上の受入 ○博物館実習・職場体験学習の受入 ・希望者の90%以上の受入 ○教員研修への協力、実施 ・希望者の100%の受入
	歴史情報を提供します	○館蔵史資料の閲覧	考古資料、文献史料、図書資料等を閲覧できるようにします。	○史資料の閲覧 ・整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等で掲載、周知 ・整理・収納した考古資料の公開を進める。依頼については事前調整を行い、閲覧可能な資料には100%対応する。 ・図書資料については、寄贈、購入等の手続き終了次第閲覧可能となるよう登録をすすめる。2月末までの受入図書資料の年度内100%登録
		○レファレンスへの対応	県民等からの質問に的確に対応し、歴史情報を提供します。	○レファレンスにに対する的確な対応 ・レファレンス対応100%実施 ・職員内のレファレンス内容共有
		○ホームページの充実	歴史情報提供の有力な手段の一つとして誰もが活用できるように、使いやすさに配慮したホームページを充実させます。	○ホームページによる情報提供 ・アクセス数の増加 前年比100%以上 ・開閉館情報や来館者へのお知らせなどをの時宜に応じて発信 ・展示解説動画配信やこども向けなど、webを利用した企画を計画・実施する。
		○歴史情報システムの整備	館蔵史資料情報をデータベース化し、ホームページ等を通じて的確に情報提供します。	○歴史情報のデータベース化の推進 ・考古資料 長野県史収録の遺跡情報の活用を推進する。展示会や講演会等で周知化を図る。 ・文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに登録する
		○マスコミ等による歴史情報の発信	広く歴史情報を県民に伝えるために、マスコミ等により積極的に情報を発信します。	○歴史館情報のマスコミからの情報発信 ・信濃毎日新聞社「しなの歴史再現」への連載 ・企画展、講座等の情報発信（新聞、情報誌等への掲載） ・ケーブルテレビによる主催講座の発信 提供講座数 9（信州学講座）
		○常設展示室での情報機器による提供	メイン展示、周辺展示を補い、必要な歴史情報を提供できるようにします。	○ビーコン(可視光ID多言化コンテンツガイドシステム)の活用 ・利用回数の増加 前年比100%以上 利用者アンケート実施 ○マルチメディアの充実 ・定期的に内容の確認、修正
楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします。	楽しむことができます	○子どもが楽しみながら歴史を体感できる空間の提供	子どもたちが歴史を楽しみながら体感し、遊びを通して学ぶことのできる空間を提供します。また、親子や家族で語り世代間のコミュニケーションを促進する場や機会を提供します。	○こども歴史館(仮称)の設置準備 ・基本構想検討委員会の開催、基本構想の策定 ○親子映画会の開催 ・参加者 年間 600人 ○体験イベントの開催 ・館内及び出前イベント(埋文センターチャレンジ教室など)を実施 (各回100人以上の体験を目標)
	人が交流できます	○来館者、ボランティア館職員などの交流の実現	展示を観覧する、講座を受講するなどの受動的なあり方を転換し、来館者同士、あるいは来館者とボランティア・館職員が気軽に交流する場や機会を提供します。	○来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場提供 ・体験イベント等における来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流促進
	憩える場を整備	○憩える場の環境整備	観覧の合間に休息できる空間や施設、そして自然環境を満喫して憩いの空間となる屋外展示を充実します。	○屋外展示の充実 ・通路の整備、清掃 ・各時代別植栽の手入れ、看板の整備
	県民が参画した館の運営	○館の史資料を活用した自主学習会の育成 ○ボランティアの育成 ○利用者の意見を反映した館の運営	県民参加の歴史館運営の一環として、館蔵史資料を使った愛好会活動が行える環境を整えます。 展示案内、体験学習、史資料整理・保存などの館活動へ主体的に参加するボランティアを育成し、ともに活動します。 館の運営に、アンケート等により寄せられた意見を反映させていきます。	○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数 500人(延べ) ・古文書解説文1冊を刊行 ○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説・体験ボランティアの募集・養成を行い、イベント運営への活用を推進 ・常設展解説等館運営ボランティアの積極的な活用 ○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケートの意見の反映 ・ホームページ問合せフォームによる意見募集
	県内全域での活動を推進し、地域に貢献する	○出前講座等の実施 ○出前授業等の実施	歴史館から離れた地域の博物館等へ館職員が伺い、館主催の講座を開催します。また、県内全域の博物館等からの依頼に応じ、講演会等を行うために職員を派遣します。 歴史館から離れた地域の学校・公民館と連携し、館職員が貴重な史資料とともに赴いて授業を行います。また、県内全域の学校（小・中・高校や大学等）からの依頼に応じて授業を行うために職員を派遣します。	○出前講座等の開催 ・「信州学出前講座」として、飯田市・大桑村・箕輪町との連携した講座を開催 3回、200人 ・上記以外の出前講座 要請の90%以上実施 ○おでかけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曾地域に加え、諏訪地域も対象に追加 10回開催 ○出前授業の実施 ・学校からの出前授業 要請の90%以上実施
県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点として	地域活性化につながる情報発信	○地域活性化につながる情報発信	積極的な情報発信による地域の活性化に寄与します。	○地域の活性化に寄与する積極的な情報発信 ・県内の地域に特化した企画展の調査・研究 ・常設展・企画展における市町村所蔵資料などの借用・展示
	地域課題の調査・研究	○地域課題の調査・研究	県の関係部局、県内外の博物館等と連携して、地域課題・地域文化の調査・研究を行います。	○歴史的水害を伝える史料の活用研究会への調査協力・連携 ・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」(山浦直人当館名誉学芸員が中心となって立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会)との連携・調査協力。 当館蔵の長野県測量図等のデジタル撮影、研究会の開催
	県内外諸機関との連携	○県内外の博物館等との連携 ○県内外諸機関との連携 ○県内外の歴史情報の収集	県内博物館・文書館等の中核として県内外の博物館等との連携を進め、史資料の収集・整理・保存及び調査・研究、情報共有等の活動を充実させます。 県の関係部局はもちろんのこと、県内外の関係諸機関と連携して活動します。 歴史情報(県内市町村資料情報、県内外歴史雑誌等情報)を収集し集約します。	○県外博物館との連携 ・新潟県立歴史博物館との連携協定の締結 ○長野県博物館協議会の運営 ・県博物館協議会HP運用。一般アクセス数年間40,000件加盟館のイベントを発信 ○関係機関との連携 ・考古学セミナー(県考古学会共催) 1回 ・近世史セミナー(信濃史学会、信州近世史セミナー共催) 1回 ・歴史館パートナーの日 年2回の開催 ○歴史情報の積極的な収集、集約 ・資料調査委員からの県内市町村資料情報の収集 ・県内外歴史雑誌等の収集及び掲載内容の閲覧システムへの登録
	県内歴史情報のデータベース化	○県内歴史情報のデータベース化 ○県内歴史情報のデジタル・アーカイブの推進 ○インターネットを活用した情報の提供	集約した県内の歴史情報をデータベース化し、関係機関と共有します。 データベース化した県内の歴史情報のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブにまとめます。 データベース化、デジタル化した県内の歴史情報をインターネットを活用して提供します。	○集約した県内歴史情報のデータベース化、共有化 ・資料調査委員からの市町村資料情報をデータベース化する ・県内出土土偶データベース化終了、発信共有 ○データベース化した歴史情報のデジタル・アーカイブ作成 ・館内史資料のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブとしてまとめる ○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供 ・ホームページ内デジタルアーカイブ利用数の増加 前年比100%以上 ・デジタルアーカイブのホームページ新規追加

※主な事業/目標値は令和2年4月1日現在で設定したものです。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業/目標値が変更となる場合がありますのでご了承ください。変更になった場合、次年度の協議会にて訂正し、状況についてご説明いたします。